

聞こえない子ども

自由遊びの時間に教室の入り口から、あるいは園庭の隅から「○○ちゃん！」と呼んでもなかなか本人が気づいてくれないことがあります。周りにいる先生方には聞こえているのでそっと子どもに教えてくれます。このような場合、大人である先生方には聞こえる声ですが、実は子どもには聞こえていないのです。音量や音の大きさの問題でしょうか。どうも違うようです。聴覚ではなく脳の発達にポイントがあるようです。

私たち大人が「聞こえる」状態とは、脳がかなり複雑な情報処理をしている結果です。心理学では「カクテルパーティ効果」がよく知られています。かなりざわざわしたパーティ会場でも、どこかで「すずき」という名前が語られると「あれ、呼ばれたかな？」とあたりを見回してしまう現象です。雑音の中から自分の名前だけをピックアップします。そもそも大勢の人がいる中で、数人の人と楽しくおしゃべりできているのは、その数人の人以外のざわざわした雑音を脳がシャットアウトしているので成り立っています。にもかかわらず自分の名前だけは例外で聞こえるのです。不思議です。

このような複雑な情報処理を子どもはまだできません。脳の発達が追い付いていません。雑音があるとさらに選択して聞き取る、たとえば先生の声だけ聞くことができません。近くにいる子どもが「ポケモン持ってる」と言えばそれと一緒に聞こえます。当然先生の声や話は聞いてはいたけれどもあいまいになりがちです。それでも年中さんくらいになれば大人ぶった話もするし、かなり生意気なこともあります。この子どもが聞こえていないなんて信じがたいです。でも6歳くらいまではうまく聞き取れないようです。保護者の中には「うちの子は無視する」と怒る方も見られますが、そんな高度なことではありません。ただ単に聞こえないだけなんです。

